

学ぶ側の論理に立った協働的探求者を目標して

研究委員会会長 岡田 憲和



昨年から新型コロナウイルス感染症によって、従来の研修方法は実施しにくくなってきましたが、そのような中でも、私たち教員の学びを止めない工夫がなされてきました。私たちの根底にあるのは、子どもたちに力をつけたい、子どもたちの笑顔が見たいという願いと共に、多様化する社会

の中で、閉塞した自分自身の経験値のみにとらわれていては、変化への対応は難しく、様々な研修を通して学んだ教育観をもとにした授業を創り上げていきたいという想いがあるように感じます。上高井教育会の中核活動をなす研究委員会でも、上高井の子ども達一人ひとりの力を伸ばす、充実した研究となるように進めていきたいと考えます。さて、本年度も信州大学の畔

同好会の発足にあたって 同好会を楽しもう

同好会会長 新津 朋典



本年度も、上高井教育会同好会が発足しました。それぞれの同好会では、毎年趣向を凝らし様々な活動を行っています。同好会は、私達が自分の教養を高めたり楽しんだりするものであります。私も長年、地歴同好会に所属していました。地歴同好会では、中

心(高山小)の活動として、上高井はもろん、県内各地、また県外へも巡検に行っていました。特に印象に残っているのは、「信濃川の源流を遡る」との企画で、信濃川の源流である、川上村まで行ったこと。また、そこでは全国一の高原野菜の生産地である村の農業の様子を学んだこと。さらに、大切にしている川上犬を村の小学校で見せていただいたこと。など様々なことを見た

算数・数学同好会の活動

算数・数学同好会会長 田中 早耶香

算数・数学同好会では、主に夏期講座に講師の方をお招きし、講習会を開いています。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で講習会を開くことはできませんでしたが、令和元年度では、嶋田秀樹先生より『タングラムによる児童書作り』詩・童話との融合』と題して講演いただきました。「和算とパズル絵画」のパズルの普及性・教材性、数学史上の課題と研究についてのお話がありました。実際に、タングラム絵画(四角の

紙を七つの図形に分けてある)を切って、参加者それぞれで、形を好きなように貼って題名をつけるなど、楽しいタングラム体験の時間となりました。今年度は、啓林館第一教育推進部の望月詩織様より、教科書改訂趣旨説明や、デジタル教科書の活用方法について紹介していただく予定です。他にも、算数や数学の授業を行う上で困っていることを気軽に相談できる場になるように、計画を練っているところで



この機会に、デジタル教科書を効果的に授業で活用する方法を、一緒に学んでみませんか? (相森中)

十七文字の世界

俳文学同好会会長 牧内 裕美子

たった十七文字。その時を見つめ、自分の気持ちを託す。俳句という「なんだか難しい」と感じる方もいらっしゃるかと思います。私自身も、この同好会活動はまだ三年目です。はじめに参加した時にはどうしようかな?とドキドキしていました。同じように、そう感じている方こそぜひ、外へ散歩に出かけ、一緒にたくさんお話してみませんか。

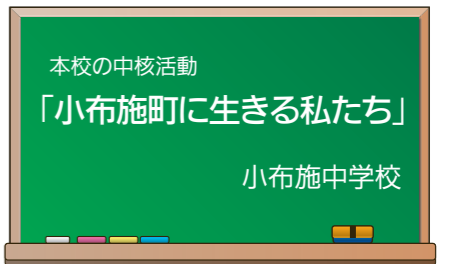


毎年同好会でご指導いただいている田中保先生から、「おしゃ

べりしていると季節の言葉が入ってくるんです」と、教えてい

ただきました。夏と秋に実施している「吟行」へ参加し、他校の先生方との何気ない会話から、なんとなく見てしまう風景をじっと見つめてみました。その後の句会では、それぞれ作った句を発表し合い、伝わってくるイメージの解説や表現の工夫などを聞くことができました。すると「もっとこの言葉で作ってみよう」と不思議と意欲が出てきて、どんな句を作る自分になっていました。

「天高しみんなで行こう俳句会」、昨年度の句会で発表された一句です。多くの先生方に参加していただき、一緒に十七文字の世界を楽しみましょう。お待ちしております。(豊洲小)



本校の総合的な学習の時間では、『小布施町に生きる私たち』をテーマとし、各学年では、①課題とその解決策を見つけ出す力、②課題に応じた、解決するための必要な情報を収集し、整理・分析する力、③自分の言葉で課題に対する答えを語る力、の三つの力を高めていくことをねらって学習を構想しています。

昨年度、現三年生は、中止となった職場体験学習の代替の活動として、小布施町の産業に関わる人達のインタビュー・VTRを観たり、町内を散策したりしました。地域で働く人々の姿や思いを知り、自分のこれからを考えた時、今の生活を振り返ったりすることができました。これからも、思うような体験ができないことが予想されます。そのような中でも、各



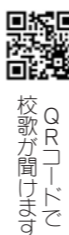
自が問いを持つことを大事に考え、自分の考えを表現していく探究的な学びを設定していきたいと思えます。

今年度、一年生は、小布施町前町長市村良三さんを講師に招き、町づくりに関する話をお聞きしました。溢れる情熱に触れ、我がふるさとに対する愛着が一層強くなったようです。歴史や地域の特色を踏まえた戦略的な町づくり構想に刺激を受け、新たな問いと探究意欲が湧いてくる時間となりました。どのような情報を集め、どう考察するのか、一人一人の追究が楽しみです。

これからは、『小布施町に生きる私たち』を軸に、三つの力を高めるよう工夫した学習活動を生徒とともに進めていきたいと思えます。(五味 隆)

本校の宝 78

我が校の宝「校歌」



QRコードで校歌が聞けます

常盤中学校

常盤中学校の校歌は、学校周辺の美しい風景が豊かに表現されており、目の前にその情景が浮かんでくるようです。また、創立当初の常盤中生の心意気が伝わってきて勇気が湧きます。

私は、常盤中に赴任して以来、生徒達には「校歌」に誇りをもって卒業してほしいと願い、共に歌っています。

本校の校歌は、創立六〇周年に、唐澤史比古先生の編曲で、混声四部合唱曲となりました。五番までの校歌は、二番から五番まで春夏秋冬になっています。編曲の唐澤先生は、いくつかの編曲のパターンを作ってくださいあってあり、それぞれの季節や用途に合わせて歌えるようになっているところもこの校歌の良さです。

毎日、校舎中から聞こえてくる校歌でしたが、昨年度は音楽会での全校校歌合唱もできませんでした。そのような中、校友会役員の生徒達が、「常盤中が大切にしている校歌も満足に歌えない、コロナ禍でも学校生活と校友会活動に精一杯取り組んでいる中学生の思いを、『木彫校歌額』



からも、この素晴らしい校歌を未来に繋いでほしいと思います。「やがて世の光とならん」とあるように卒業後も、それぞれの場所で輝き、いつまでも「校歌」が一人一人にとって大切なものであることを願っています。(駒村 京子)